

# 各地からの たより



各地の取り組みを  
ご紹介します

- 宮城北部森林管理署
- 朝日庄内森林生態系保全センター

## 一貫作業システム 現地勉強会を開催

宮城北部森林管理署



プロセッサによる全木集材の実演

11月2日、宮城北部森林管理署において、宮城北部森林管理署主催の平成28年度一貫作業システム現地勉強会を開催しました。森林施業の低コスト化に向けた取組について、昨年度より打合せ会議及び事業体との意見交換会を開催しましたが、今年度は路網関係及び下刈省略化の現地勉強会を実施し、署としての認識統一を図ってきたと心得ます。

一貫作業システムに関しては、局管内全署において取り組まれており、当署においても宮城北部地域で実施し、この度、一貫作業システムによる低コスト施業の現地勉強会を行いました。

今回は、今後本取組を民有林等へ普及させる観点から、管内各地方振興事務所及び管内各市町の林務関係者等の出席を予定

し、積極的に意見交換を行うこととしました。

この日は、宮城県北部地方振興事務所、宮城県気仙沼地方振興事務所、大崎市、宮城北部流域森林・林業活性化センター、東和町森林組合、石巻地区森林組合、榊小山材木店及び宮城北部森林管理署の31名が参加しました。



使用したコンテナ苗大苗

開会に当たり相澤署長は「一貫作業システムは地拵えの低減化とコンテナ苗を使って植栽本数を減らしながら造林事業を進める。より良い作業システムにしていき定着に向けて取り組んでいきたいと思います。」と挨拶しました。

前半は、コンテナ苗の植栽を想定した伐倒、集材、造材作業を実演しました。

チェンソー伐倒とプロセッサによる全木集材、枝払い、造材を行い、林内に枝条が散らばらない様子を再現しました。

後半は、コンテナ苗大苗の植栽を実演し、三人一組で効率的に行う様子を再現しました。

この場所では、森林技術・支援センターが低コスト施業を実証するため、コンテナ苗と苗高60cmのコンテナ大苗をヘクタール当たり1,500本の低密度で植栽する試験区を設け、一貫作業とコンテナ苗の低密度植栽を組み合わせることで、苗木の削減と林業機械の活用による地拵の省力化を検証することとしています。

また、植栽後、コンテナ大苗の成長量や下刈の省力化について調査し、造林コストの削減を検証することとしています。

参加者から、コンテナ苗の取扱い上の注意点について質問があり、請負業者である榊小山材木店代表取締役の小山章宏氏は、「コンテナ苗を乾燥させないため、苗が到着してから3日以内に植えている」との説明を頂きました。

最後に相澤署長は、「このような勉強会や検討会を数多く重ねていくなから、より良い一貫作業システムの構築に向けて取り組んでいく。民有林と情報共有しながら、進めてまいりたい」と結び閉会しました。



現地勉強会の様子

## 地域イベントでPR

朝日庄内森林生態系保全センター

10月15日(土)～16日(日)及び11月3日(木)の3日間、山形県鶴岡市小真木原



公園(鶴岡会場)及び朝日コミュニティセンター(朝日会場)において、当センターの取組み紹介と木工クラフト作りを行いました。

鶴岡会場は一庄内森とみどりのフェスティバル」に、朝日会場は「あさひ産業文化まつり」に当センターのブースを出店し、3日間で延べ約400名の方に来て頂きました。

木工クラフトコーナーでは、まず、グルーガンで火傷しないよう使用方法を説明し、各自で使用する材料(松ぼっくりや輪切りの木片)を選び、思い思いにビーズや花びらなどの飾り付けをし完成させていました。

パネル展示コーナーでは、朝日山地の四季の風景写真に見入る人、保全作業の取組等を熱心に読んでいる方もおられ、センター職員から保護地域の説明や手渡したマナーパンフレットを楽しそうに見られていました。



パネルを見入る来場者

今後もこのような機会を捉え、朝日山地の保護やセンター業務の紹介に努めて参ります。